

Citation: Goh HH. Interspace/interdental brushes for oral hygiene in orthodontic patients with fixed appliances. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2007, Issue 3. Art. No.: CD005410. DOI: 10.1002/14651858. CD005410. pub2.

CRG名: Oral Health

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 18 May 2007

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 1; -

背景: 固定式矯正装置を装着された歯面のプラークの量は増加する。プラークの効果的な除去は、口腔の健康に必要不可欠であるが、インタースペースブラシあるいは歯間ブラシの使用が有用であるかどうかについては明白ではない。

目的: 固定式矯正装置を用いて治療中の患者における、プラーク除去、歯と歯周支持組織の健康、信頼性、費用、および有害作用について、標準的な歯ブラシのみと標準的な歯ブラシにインタースペースブラシ／歯間ブラシを一緒に使った場合の有効性を比較した。

検索戦略: Cochrane Oral Health Group's Trials Register、CENTRAL、MEDLINE、EMBASEおよびCINAHLの検索を行った。衛生士学校に追加データを得るために連絡をとった。言語制限は行わなかった。関連雑誌のハンドサーチを行った。最終検索は2006年1月である。

選択基準: 以下の基準を含むランダム化比較試験(RCTs): 参加者一固定式の矯正装置が装着された手先の器用さに問題が無い患者; 介入一非監視下での、標準的な歯ブラシの使用のみに対する標準的な歯ブラシと歯間ブラシやインタースペースブラシの使用の歯磨きの状態。プライマリーアウトカムは、プラークコントロール、歯肉の健康、脱灰でのコントロールとの差異である。

データ収集と分析: 適格な研究をスクリーニングし、研究の方法論の質の評価とデータ抽出の評価は、二重に独立して行った。研究は、介入とアウトカム指標で分類された。連続的なアウトカムに対しては、標準化平均差と95%の信頼区間で、二値変数アウトカムについては、危険率を用いた変量効果モデルとして示された。異質性についても調査された。

主な結果: 帰無仮説を支持あるいは意義を唱える研究はなかった。

レビューアの結論: 標準的な歯ブラシに、歯間ブラシ／インタースペースブラシの使用を加えることを推奨する現在の臨床状況は、臨床研究によって支持されていない。歯間ブラシと普通の歯ブラシは、矯正治療の間、損耗し、より頻繁に取り替えられる必要がある。これは患者にとって、口腔衛生製品の経済的負担を増加させる。よくデザインされたランダム化比較試験を行って、この領域の臨床的対応を決定するエビデンスを提供する必要がある。

(翻訳 保田好隆・監訳 毛利 環; JCOHR)

翻訳公開日: 08年4月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点があれば、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。